

水と緑に潤う北薩摩路



3 金山橋 きんざんはし

緑濃い森林と勇壮な活火山が続き、魅惑的な高原と大地が広がる情熱的な南国・鹿児島。山野を流れ、耕地を潤す河川に架かる橋梁群が、郷土発展の基盤をしっかりと支えています。

注目の開腹式アーチ橋

宮崎自動車道の高原ICから国道223号を西へ向かい、御池を經由して霧島バードラインを走ると、右手に霧島神宮の一の鳥居が見えてきます。この鳥居をくぐって表参道を進むと、本殿へ上る階段の前に**神宮橋** **1** が架かっています。橋長43.5m、幅員9.7mの堂々とした鉄筋コンクリートの一連アーチ橋です。朱色の高欄には神々しい擬宝珠が配され、橋面の張出し梁は寺社建築の架構、組物を丁

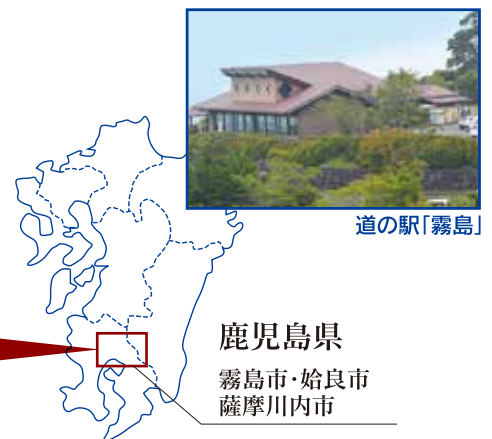
寧にコンクリートで造形するなど、神域にふさわしいデザインが随所に施されています。昭和13年(1938)の築造当時の原形を現在もそのまま良好に保ち続け、存在価値を高めています。

この神宮橋の橋脚周辺は樹木が繁茂し、その全貌を見ることはできませんが、本殿に向かう表参道の左側から谷へ降りる木造の階段が設けられており、橋脚とアーチの形状を、木々の葉越しに部分的に眺めることができます。

再び国道223号を進み、霧島連山の

南西に湧出する霧島温泉郷、坂本龍馬・お龍が新婚旅行で連泊した塩浸温泉を經由して霧島市へ向かいます。

妙見温泉の手前、天降川に架かるのが(旧)**安楽橋** **2** です。昭和4年(1929)、旧国道223号に架橋された橋長22.5mの鉄筋コンクリート開腹式アーチ橋は、クラシカルな高欄の装飾にモダンな感覚が漂います。昭和後期に新安楽橋がすぐ隣に築造されるまで、国道橋として地域を支える大切な役割を果たしてきました。幾度もの洪水にもオープンアーチ構造によって倒壊・流失を免れてきたということです。現在、交通量は減少していますが、往年の雄姿を変えることなく、そのまま保存・維持されているのです。



アーチと滝の対比の妙

さらに国道223号を錦江湾に向かって下り、国道10号を右折して加治木朝日町交差点から県道55号へ右折します。高速道路の下を抜けて約1kmほど走ると、左手に一旦停止の標識が立つ坂道があります。逆方向に上るこの坂道をしばらく進むと、綱掛川に架かる**金山橋** **3** が現れます。

島津家は明治10年(1877)、霧島市横川にある山ヶ野金山の本格的な稼働を目指していました。これに先駆けて加治木港からの効率的な物資輸送を実現するため、横川街道の整備に着手します。起伏の激しかった街道を改めて開削してなだらかにし、従来の橋を架け替え、明治8年(1875)に橋長22.5m、復員4.5mの堅牢な石造アーチ橋・金山橋を架橋したのです。

美しい半円形を描く精緻な石組みと二重アーチの装飾、幾何学的な高欄のデザインなど、優美な姿が印象的であり、壁面に茂る緑の苔や草木が、潤い豊かな表情を見せてくれます。一連の石造アーチ橋では鹿児島県内で最大の規模です。白い水しぶきを上げる勇壮な板井手の滝が背後に望まれ、橋との対比も爽快で魅力的です。



1 神宮橋 じんくうばし



神宮橋 高欄



4 始良橋 あいらばし(別府川橋べふかわばし)

伝統技術活かした石橋

さきほどの国道10号を始良方面へ向かい、加治木町木田交差点を右折して進むと、**始良橋(別府川橋)** **4** が現れます。

別府川河口に架かる鉄筋コンクリート橋梁は昭和7年(1932)に竣工しました。橋長は150mあり、県内の鉄筋コンクリート橋では最長で、幅員5.7mの重厚なたたずまいに、独特の存在感が漂います。どっしりとした中抜き鉄筋コンクリートの橋脚を、径間15mで10連も設置し、上部の鉄筋コンクリート桁を支える構造です。

橋脚の頂端部には周囲をぐるりと縁取るモールディングが施され、レトロな味わいを感じられます。丸に三つ矢という独特の文様を連続させた閉塞高欄の意匠に、昭和モダン時代の息吹を感じられます。

かつては国道10号に建設され、近代化を力強く担った始良橋ですが、国道バイパスの完成にともなって移管され、現在は始良市の市道橋として供用されています。

国道10号を少し戻り、みろく交差点で県道42号に左折し、薩摩川内市方面へ向かいます。国道328号と交わる日ノ丸交差点の約1.3km手前の左側、古民家レストランの裏手に**新大橋** **5** があります。入来町の中央部を東西に流れる後川内川(うしろせんないがわ)に架かる石造二連アーチ橋であり、橋長

24.4m、幅員3m、径間長11mの華麗な姿です。すっきりとしたアーチ形状、個性的な水切り石、リズムカルに連なる高欄の装飾など、注目ポイントが多数あります。

県道蒲生線(現在の川内加治木線)の開通にともない、明治42年(1909)に地域の人々から寄付金を集め、当時の工費250円を確保して築造されたそうです。昭和34年(1959)には自動車の普及拡大に対応するため、橋の拡幅工事が行われています。

壁面は緻密な布積みで築かれ、近世以降に培われてきた伝統の石造技術を活かしながら、橋面は道路交通に配慮し、反りのない平面的な形状に仕上げられています。110年以上も経っている現在も、現役の生活道路として地域の生活をしっかりと支えています。

この地域では国道223号沿いに、サツマイモの銘菓や加工品、名産の霧島黒豚の関連商品、工芸品なども充実し、多彩なメニューが味わえるレストランを完備した「道の駅霧島」、県道42号沿いに、地元農作物や食材がそろい、メダカや金魚、花苗などが豊富にあり、ほのぼのゆつたりの足湯施設も備えた魅力的な「道の駅樋脇」があります。思い出をより鮮やかに心に残してくれる名産品や土産品を探すのも、旅の大きな楽しみと言えます。



2 (旧)安楽橋 (きゅう)あんらくばし



5 新大橋 しんたいばし